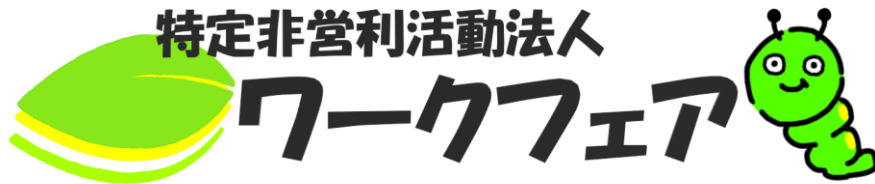


～いきる、くらす、はたらく。みんなで奏でよう♪～



ワークフェアだより 第8号 2023年7月

北海道北見市を拠点にオホーツク圏全域で、
生活相談や就労支援、子どもの学習支援などに取り組んでいます。

ワークフェアのマスコットキャラクターが誕生した。名付けて「はたらくあおむし」。

昨年夏に開いたフリーマーケットに、青虫のおもちゃを我が家から出品した。子供たちが小さかった頃に、義母が温泉街の土産店で買ってくれたものだ。ぜんまいを巻くと、ギイギイと音を立て、背中を丸めて反らせて前進する。

見事に売れ残り、リサイクル店でも返された。捨てる気になれず、机の隅に置いてみると、スタッフがからかうように言った。「何ですか、これ。ワークフェアのマスコットにでもするんですか?」

…降臨！ これだ！ 優柔不断な私が即決した。これこそ法人の理念にぴったりだ。

今一度、私たちの理念を確認したい。

わたしたちは、

- ・すべての人が、人生を自分で動かす力を持っていること、社会において役割を担っていることを信じ、
- ・「はたらく」をキーワードに、その自己実現のため、共に歩みます。
- ・そのために多くの企業・団体、一般市民と手を結び、地域社会に働きかけます。

…どこが青虫かと？

- ・ちっぽけで足もない虫だが、(ぜんまいで)自分を動かす力を持っている。
- ・葉っぱを食べてウンチを出して土を作り、生態系の一環を担っている。
- ・さなぎになってひきこもる時期もあるが、蝶や蛾に羽化して舞う日も来る。

後付けではあるけれど、なかなか含蓄のあるキャラクターになったと自負している。

これからは家庭菜園に青虫がいてもつまみ出せないなあ。…なあんて、畑仕事、全然手伝っていないんだった。家族に作ってもらった野菜を食べるだけ。まさに青虫…。(代表理事 柳谷 君予)

各事業部より(2022年度の活動報告&近況)

》》 滝上町との協同事業

～障がい・ひきこもりの方の就労/就業体験モニターツアー～

相談会開催 12回 相談者数 2名、就業体験ツアー「お仕事チャレンジ in 滝上」参加者 3名

《町役場の事務作業に挑戦》

2022年度の「お仕事チャレンジin滝上」では、初めて滝上町役場内でのお仕事に挑戦！ 書類の封筒詰め等の作業を体験しました。

これまで主に取り組んできた、芝ざくら公園やハッカ畑の草取りや、ホテルの裏方作業などに加えて、軽易な事務作業について自信を持つことができました。



5月には若者サポートステーションを利用している方が芝ざくら滝上公園で苗植・除草作業員として1か月間のアルバイトに挑戦！ 初日は支援員が同行し、円滑な就労をサポートすることができました。

町内の佐々木新聞販売店さまより、古新聞を回収するビニール袋の折り畳み作業を委託していただくことになりました。今後は町内での日中活動のツールとして有効に活用したいと思います。

特集

スパロウハウス



～住居を失った方・借りられない方・自宅にいられない方等への一時的な住居の提供～

部屋数 ▶前年度から継続: 5 部屋 新設: 4 部屋 終了: 3 部屋(最多時 7 部屋 最少時 5 部屋)
入居者 ▶前年度から継続: 4 名 入居: 10 名 退去: 10 名 入居打診 ▶26 件(内 6 件はその後入居)

《オホーツク管内初！》

2023年4月25日付で北海道より「国土交通省 住宅確保要配慮者 居住支援法人」に指定されました。オホーツク管内では初となります。今後も、住まいの確保に困難を抱える方々のセーフティネットとして地域に根ざしていききたいと思います。

※居住支援法人とは・・・高齢者、所得の低い方、障がい者、子育て世帯など、住まいの確保に特に配慮が必要な方(住宅確保要配慮者)に対して、住まい探しのお手伝いや入居後の生活支援を行っている法人として都道府県が指定するものです。

《市営住宅の空き部屋を活用》

北見市公営住宅管理課の協力により、市営住宅の空き部屋を、一時的な住居として活用し始めました。需要に応じて機動的にお借りすることができ、大変助かっています！



ご寄付ありがとうございました！

- ・やむべつメーメーカー様: タオル
- ・市内某企業様: フェイスタオル、石鹸
- ・爽活サービス様: 冷蔵庫、照明器具
- ・前岡様: 大人用自転車
- ・北見社協ボランティア係様: カップ麺等
- ・有限会社ソナタ 川尻様: 布団



》 とも事業部

北見市学習支援えぞりす

～子どもの学習支援・北見市～



利用者 64 名(小 16 中 43 高 4 他 1)
高校進学 8 名
来所 1418 回 訪問 461 回
学校と連携(登校カウント) 4 校

北見市学習支援事業では子どもの状況に合わせて、来所・第2会場・公共施設・家庭訪問など様々な形で支援ができました。特に中3受験生は支援員とのマッチングや配置などを考え、必要な科目に取り組めるよう柔軟な支援をすることができました。

オホーツク町村部ではタブレットを利用したオンライン学習を開始しました。セキュリティ面などで軌道に乗せるまで苦労しましたが、継続的に利用できた例があり、広域での学習支援において、効果的であることの認識が深まりました。

こども訪問事業 ～困窮ではない世帯を対象とした不登校の訪問支援～
4名(小学生 3 名 中学生 1 名) 27 回訪問

イラストクラブ ～絵が好きなメンバーが、自由に活動しています～

開催数23 回 作品展 1 回(北網圏文化センターラウンジ)

毎月第2、第4土曜日の14時～16時に、主にサポステフロアで活動しています。イラスト以外に折り紙、切り絵やぬりえ、たまにプラバン作成もしたりと素材は人によって様々。不定期で展示会も開催しています。



オホーツク学習センターふくろう

～子どもの学習支援・オホーツク町村部～



利用者 27 名(小 17 中 8 高 2)
高校進学 3 名
訪問 273 回 拠点 12 回(遠軽、大空)
通信 41 回(オンライン 37、郵送 4)
学校と連携(登校カウント) 1 校



》 はたらく事業部

オホーツク若者サポートステーション ～15～49歳で働けていない方の就労を応援しています～

新規登録数: 44 名 就職等: 39 名



《高校と連携》

管内の高校を訪問し、定時制高校を中心に複数の高校の教諭と、支援の必要な生徒像などについて意見交換をすることができました。

進路に関する講話の依頼も2件いただき、実施しました。

←網走南が丘高校定時制「就活講話」の様子(2022/6/10)

総括コーディネーター 永矢です！

『ONE for ALL
ALL for ONE』



《自己肯定感と自信、その先に》

サポステ利用4年目の方が、JAさろまさんの「カボチャ収穫体験」で自信を得てカボチャ農家に就職！息の長い支援とプログラムを工夫したことへの実りを実感しました。職員一同、ご本人の頑張りをサポートし続けられたことをうれしく思います。



北見市社会的居場所づくり支援 ～生活保護を受給している方の社会参加支援～

新規 4 名・終了 4 名・前年度からの継続者 19 名

《グループ活動で、年配者が若者のけん引役に》

健康面の不安を抱えつつ月2回来所しグループ活動している60代の男性。他の若い参加者に自ら声をかけ気配りし、作業の牽引役となってくれています。



生活困窮者就労準備支援 ～ひきこもっている方などの社会参加支援～

北見市: 新規利用者 9 名、プラン継続中 7 名 / オホーツク: 新規利用者 0 名、プラン継続中 2 名

《生活困窮者支援の力》

介護している家族への虐待を疑われていた若者が、福祉関係者からの紹介で就労準備につながりました。若者サポステではつながりにくいケースで、生活困窮者支援の力を感じました。



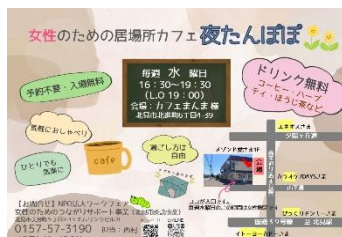
》 その他の事業

女性のためのつながりサポート ～コロナ禍により顕在化した女性の孤立を防ぎ、生き生きとした生活を実現～

新規相談 67 名、出張相談会 & 居場所づくり(ミニ講座)開催 14 回 利用者延べ 158 名、居場所カフェ開催 28 回 利用者延べ 66 名、希望者への生理用品の提供 802 パック



《幅の広い年齢層と相談内容》



相談に繋がったのは10代の中学生から80代までと幅広く、内容も不登校、離婚や暴力問題、ご近所トラブルなど多岐にわたりました。全戸配布の折込チラシやLINE相談の導入、閉店後のカフェを利用した居場所カフェ、毎月の出張相談会も回を重ねるごとに利用が増えています。

親やパートナーから虐待を受けて家を出る選択をしたケースが複数あり、当法人内の居住支援部門と連携したことで、多面的な見守りや支援の広がりに繋がりました。

※「女性サポートに役立ててください」と市外女性から現金15万円、市内女性2名から生理用品のご寄付を匿名でいただきました。心より感謝いたします。



》》いきる・くらす事業部

オホーツク相談センターふくろう ～生活困窮者の相談支援・オホーツク町村部～

新規相談 134名 プラン策定 66件



《オンラインの強化》

ホームページをリニューアルして、年々増加しているインターネット経由の相談への対応の強化をはかりました。このリニューアルにより、パソコンだけではなく、スマホなどからも情報が見やすくなりました。

また、タブレット端末を利用してオンラインでの面談に対応可能となりました。さらに社用携帯を利用しLINEやショートメールを相談者さんとの連絡ツールとして活用しました。

2022年度は就労者数がこれまでで最多でした。丁寧で具体的な就労支援を意識したことが良い結果につながったのではないかと思います。



★イオン幸せの黄色いレシート 感謝いたします★

2022年度「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」で、約22,000円の買い物券をいただきました。スパロウハウスの備品や支援用の食料品を購入いたしました。



2023年度も毎月11日は黄色いレシートの日。ワークフェアのポストに、投函よろしくお願いします。

☆通常総会報告

5月30日に通常総会を開催し、以下の議案が承認されました。

- ・2022年度事業報告と収支決算報告
- ・2023年度事業計画と収支予算案
- ・役員改選

理事の互選で、代表理事に引き続き柳谷君予が選任されました。2022年度の収支決算は以下のとおりです。

経常収入	81,192	経常支出	79,022
会費	224	事業費	78,555
寄付	150	(内訳:人件費)	(52,587)
受託事業収入	76,013	(内訳:その他経費)	(25,968)
自主事業収入	4,401	(内訳:租税公課)	(5,539)
その他	402	管理費	466
経常損益(経常収入－経常支出)			2,169

☆賛助会員 ご協力ください☆

年会費:一口1,000円(何口でも大歓迎です)

下記にご連絡の上、持参いただくかお振込みをお願いします。

振り込み先:北見信用金庫本店(普通)1182495

発行:特定非営利活動法人ワークフェア

〒090-0064 北海道北見市美芳町5丁目2-13 エムリンクビル

0157-57-3136(代表・はたらく事業部・こども事業部)

0157-25-3110(相談ふくろう) 0157-57-3190(女性・居住支援)

ホームページ: <https://info140929.wixsite.com/workfare>

Facebook: <https://www.facebook.com/workfarekitami/>

メール: info@workfare.link

